

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成27年10月8日 (2015.10.8)

【公開番号】特開2014-43349(P2014-43349A)

【公開日】平成26年3月13日 (2014.3.13)

【年通号数】公開・登録公報2014-013

【出願番号】特願2013-222662(P2013-222662)

【国際特許分類】

B 6 5 H 7/06 (2006.01)

G 0 3 G 21/00 (2006.01)

【 F I 】

B 6 5 H 7/06

G 0 3 G 21/00 3 7 0

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月20日 (2015.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

分離部と、

第 1 集音部が前記分離部の近傍に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 1 音信号を出力する第 1 音信号出力部と、

第 2 集音部が原稿の搬送路の原稿搬送方向と直交する方向の少なくとも一端に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 2 音信号を出力する第 2 音信号出力部と、

前記第 2 音信号に基づいて、ジャムが発生したか否かを判定する音ジャム判定部と、を有し、

前記音ジャム判定部は、前記第 1 音信号に基づいて原稿がシワを有するか否かを判定し、原稿がシワを有すると判定した場合に、ジャムが発生したと判定しにくくする、ことを特徴とする原稿搬送装置。

【請求項 2】

前記第 2 音信号出力部は、前記第 2 集音部が原稿の搬送路の原稿搬送方向と直交する方向の両端にそれぞれ設けられる、請求項 1 に記載の原稿搬送装置。

【請求項 3】

前記第 1 音信号及び前記第 2 音信号は、それぞれ原稿が搬送中に発生する音から生成された信号の外形を抽出した信号である、請求項 1 または 2 に記載の原稿搬送装置。

【請求項 4】

前記第 1 音信号及び前記第 2 音信号は、それぞれ原稿が搬送中に発生する音から生成された信号をデジタル化した信号である、請求項 1 または 2 に記載の原稿搬送装置。

【請求項 5】

前記音ジャム判定部は、前記第 2 音信号に基づく情報と第 1 閾値との比較結果に基づいてカウンタ値を更新し、前記更新したカウンタ値を第 2 閾値と比較することによりジャムが発生したか否かを判定し、原稿がシワを有すると判定した場合に前記第 1 閾値又は前記第 2 閾値を大きくすることによりジャムが発生したと判定しにくくする、請求項 1 ~ 4 の何れか一項に記載の原稿搬送装置。

【請求項 6】

第 1 集音部が分離部の近傍に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 1 音信号を出力する第 1 音信号出力部から前記第 1 音信号を取得する第 1 音信号取得ステップと、
第 2 集音部が原稿の搬送路の原稿搬送方向と直交する方向の少なくとも一端に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 2 音信号を出力する第 2 音信号出力部から前記第 2 音信号を取得する第 2 音信号取得ステップと、

前記第 2 音信号に基づいて、ジャムが発生したか否かを判定する判定ステップと、を含み、

前記判定ステップにおいて、前記第 1 音信号に基づいて原稿がシワを有するか否かを判定し、原稿がシワを有すると判定した場合に、ジャムが発生したと判定しにくくする、
ことを特徴とするジャム判定方法。

【請求項 7】

第 1 集音部が分離部の近傍に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 1 音信号を出力する第 1 音信号出力部から前記第 1 音信号を取得する第 1 音信号取得ステップと、
第 2 集音部が原稿の搬送路の原稿搬送方向と直交する方向の少なくとも一端に設けられ、原稿が搬送中に発生する音に応じた第 2 音信号を出力する第 2 音信号出力部から前記第 2 音信号を取得する第 2 音信号取得ステップと、

前記第 2 音信号に基づいて、ジャムが発生したか否かを判定する判定ステップと、をコンピュータに実行させ、

前記判定ステップにおいて、前記第 1 音信号に基づいて原稿がシワを有するか否かを判定し、原稿がシワを有すると判定した場合に、ジャムが発生したと判定しにくくする、
ことを特徴とするコンピュータプログラム。